

博物館日誌

- 6/4 (月)～6/12 (火) 移動楽器博物館 浜松市立蒲小学校
- 6/6 (水) レクチャーコンサート  
「パウルの響き～インド西ベンガル州の吟遊詩人～」  
19:00 天空ホール 演奏：パルパティ・パウル  
来場者：144人
- 6/9 (土) リードオルガンDAY「リードオルガン解体ショー」  
13:00～14:15 音楽工房ホール 入場者：83人
- 6/9 (土) リードオルガンDAY 明治150年記念コンサート  
「足踏みリードオルガンの魅力～児童合唱とともに～」  
15:00～16:30 音楽工房ホール  
出演：浜松ライオネット児童合唱団、初村則子(児童合唱指揮)、  
日本リードオルガン協会会員(オルガン・歌)、三輪保志(フルート)  
入場者：165人
- 6/10 (日) リードオルガンDAY 子ども・大人ワークショップ  
「足踏みリードオルガンをひいてみよう！」  
A10:00～11:45、B13:30～15:15 研修交流センター  
講師：日本リードオルガン協会会員 受講者：19人
- 6/10 (日) リードオルガンDAY ミュージアムサロン「リードオルガン」  
11:00、14:00、15:30 天空ホール  
出演：多田なおみ(日本リードオルガン協会会員)  
入場者：168人
- 6/10 (日) レクチャーコンサート関連 井生明写真展  
「パウルを育む黄金なる大地  
～インド、西ベンガル州の人と風土～」終了
- 6/17 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(アジア)  
参加者：53人
- 6/19 (火)～6/20 (水) 移動楽器博物館 浜松市立平山小学校
- 6/21 (木)～6/22 (金) 職場体験 浜松市立江之島高等学校 2人
- 6/24 (日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤) 参加者：43人
- 7/1 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(アジア)  
参加者：88人
- 7/8 (日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤) 参加者：48人
- 7/15 (日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤) 参加者：65人
- 7/16 (月) 楽器づくりワークショップ「とり笛をつくろう！」  
10:30、11:30 地下展示室 指導：ボランティア  
参加者：23人
- 7/22 (日) ミニ展示「沖繩の心の音～三線～」開催
- 7/22 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(アジア) 参加者：25人
- 7/22 (日) ミュージアムサロン「三線」14:00、15:30 天空ホール  
出演：山内昌也(歌三線)、佐久本純(歌三線)、林杏佳(箏)  
講師：仲嶺幹(沖繩県三線製作事業協同組合事務局長)  
入場者：95人
- 7/29 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(アジア)、14:00(鍵盤)  
参加者：51人

- ♪ギャラリートーク  
(職員が毎日数回、展示品をひとつ選んで10分間ほど解説)
- 6月 計103回 参加者：1253人
  - 7月 計101回 参加者：1434人

お知らせ

- ★7/28(土) 開催予定であった、子ども向け楽器作り体験ワークショップ「一休さんも吹いた笛・小さな尺八“一節切(ひとよぎり)”をつくって演奏しよう！」は、台風のため延期になりました。開催日は後日改めてお知らせします。
- ★10/13(土) 開催予定であった、レクチャーコンサート「フランスの狩猟ホルン」は中止となりました。

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説  
※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回 展示品の解説を行います
- 特別展  
11/15(木)～2019/1/6(日) 明治150年記念  
「教室で出逢った唱歌と童謡～音楽教科書が語る日本のあゆみ～」  
楽器博物館展示室
- 講座  
8/5(日) 城北図書館「音楽のまち講座」楽器博物館連携企画  
「『スーホの白い馬』の馬頭琴ってどんな楽器？」  
10:00 城北図書館講座室 講師：福井則之(馬頭琴演奏者)
- 9/23(日) 講座・楽器の中の聖と俗(全2回)  
第1回「奥美濃に残る武将の舞い 嘉喜踊り/谷汲踊り」  
13:30～15:00 研修交流センター 講師：西岡信雄
- 9/30(日) 講座・楽器の中の聖と俗(全2回)  
第2回「琉球王朝の新春 朝拝御規式(ちょうはいおきしき)」  
13:30～15:00 研修交流センター 講師：西岡信雄
- ワークショップ  
10/14(日) ふじのくに子ども芸術大学  
「インドネシアの伝統芸能体験～影絵・ガムラン・宮廷舞踊～」  
A. 影絵人形作り 10:00～12:30(小学1～6年生対象)  
B. ガムラン演奏 13:30～14:30(小学3～6年生対象)  
C. 宮廷舞踊体験 15:00～16:30(小学3～6年生対象)  
研修交流センター 講師：インドネシア伝統芸能団ハナジヨス  
(ローフィット・イブラヒム、佐々木宏実)、西岡美緒
- 10/28(日) 親子ワークショップ「羊毛フェルトで楽器の絵を作ろう！」  
13:30～16:30 ※時間が変更になりました。 研修交流センター  
講師：安岡真理(静岡市美術館学芸員)、太田紗世(同)
- 館長対談～この人に聴く～ 14:00～15:00 天空ホール
- 8/4(土)「ガーン!と仰天、浜松まつりのラッパ」  
ゲスト：奥中康人(静岡文化芸術大学芸術文化学科教授)
- 8/8(水)「バリから学ぶ芸能の未来」  
ゲスト：梅田英春(静岡文化芸術大学芸術文化学科教授)
- 8/11(土)「人生はテルミンとともに」  
ゲスト：竹内正実(テルミン演奏家)
- 8/26(日)「ムビラに魅せられて」  
ゲスト：スミ・マズィタテグル(ムビラ演奏家)
- 11/17(土)「人をつなぐデザインのカ」  
ゲスト：峯郁郎(静岡文化芸術大学芸術文化学科教授、  
文化・芸術研究センター長)
- ミニコンサート/音楽の広場 天空ホール 30分間
- 8/20(月)「リトアニア女声合唱～森と湖の歌声～」13:30  
出演：女声合唱“ベニ・ガウデーレ”
- 8/26(日)「アフリカのムビラ」15:30 出演：ガリカイ・ティリコティ

浜松市楽器博物館だより

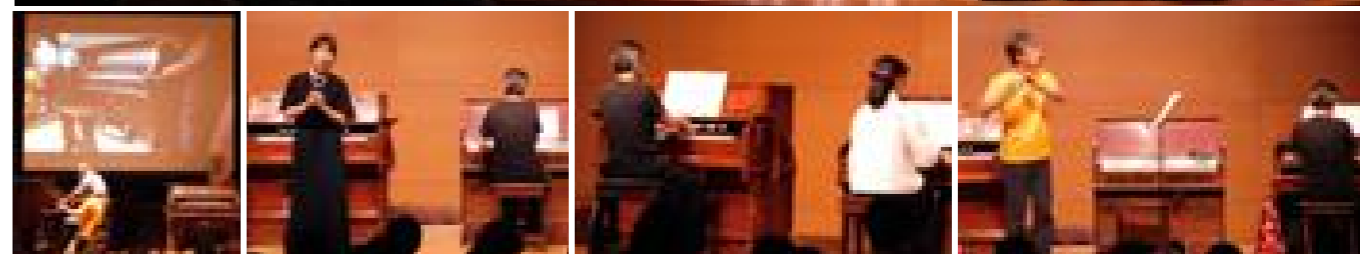
平成30年8月3日発行 No.124  
編集 浜松市楽器博物館  
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1  
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129  
URL <http://www.gakkihaku.jp/>



# リードオルガンDAY 明治150年記念コンサート

## 足踏みリードオルガンの魅力

### ～児童合唱、歌、実技、構造～



明治150年を記念する足踏みリードオルガンのコンサートが6月9日(土)に開催されました。足踏みリードオルガンは、浜松の楽器産業の最初の製品でもあり、明治時代の学制による学校での音楽の授業＝「唱歌」教育の伴奏楽器として欠かせない存在でした。また学校教育とは別に、キリスト教会での讃美歌の伴奏楽器としても必需品で、明治、大正、昭和を通じて、日本中に普及した楽器です。

このコンサートは、日本リードオルガン協会年次大会が今年浜松で行われたため、楽器博物館との共催で一般公開イベントとして開催されました。プログラムは、オルガンソロや二重奏、またフルートや歌とのアンサンブルで、ヨーロッパのクラシック音楽、日本の文部省唱歌や童謡、その他歌曲、教会音楽、現代作品と多岐に及び、オルガンの魅力がよくわかるコンサートとなりました。

第2部では、地元浜松の児童合唱団「浜松ライオネット児童合唱団(指揮：初村則子)」も出演。リードオルガン2台の伴奏で、「夏は来ぬ」「茶摘み」「われは海の子」

「富士山」など16曲をメドレーで披露し、アンコールでは「ふるさと」を聴衆とともに歌いました。

会場には老若男女160人以上が集まり、リードオルガンの音色に耳を傾けたり、唱歌と一緒に口ずさむ光景が見られました。今ではピアノで有名な浜松の楽器産業の原点を改めて認識するコンサートでもありました。

また、コンサートの前には同じ会場で「リードオルガン解体ショー」、翌10日(日)には大人と子ども対象のリードオルガン演奏ワークショップ(2面)、博物館展示室でのミニコンサート(2面)も開かれ、リードオルガンを200%楽しんだリードオルガンDAYの2日間となりました。

足踏みリードオルガンDAY 明治150年記念コンサート  
「足踏みリードオルガンの魅力～児童合唱とともに～」  
日 時：平成30年6月9日(土) 15:00  
出 演：日本リードオルガン協会会員(オルガン、ソプラノ)  
三輪保志(フルート)、浜松ライオネット児童合唱団(児童合唱)  
「リードオルガン解体ショー」  
日 時：平成30年6月9日(土) 13:00  
出 演：日本リードオルガン協会会員他  
会 場：どちらも研修交流センター 音楽工房ホール  
入場者：165人(コンサート)、83人(解体ショー)

## 子ども・おとなワークショップ「足踏みリードオルガンをひいてみよう！」



リードオルガン DAY2 日目の6月10日(日)は、リードオルガンの演奏体験ワークショップを開催しました。大人の方は、リードオルガンというと「小学校にあった」という方も多くいらっしゃると思いますが、現在ほとんどの小学校ではリードオルガンに代わり、電子オルガンやピアノが使われています。

今回は大人から子どもまで参加できるワークショップだったため、リードオルガンに触れたことのある大人と、リードオルガンを見るのも初めてというような小さな子ども、どちらの方も楽しめるよう、2グループに分かれて行いました。子どもグループでは、ペダルを踏みながら演奏するには身長が足りないということで、ペダルを足踏みする先生の膝に座って指だけチャレンジする姿も見られました。また、普段ピアノで練習している曲をリードオルガンで演奏する受講者もいましたが、それぞれの楽器の特性を感じられたのではないかと思います。大人グループは、演奏だけではなく仕組みや歴史についての質問も飛び交いました。実際に楽器を演奏することで、改めてリードオルガンの魅力を感じられたのではないのでしょうか。

子ども・おとなワークショップ  
「足踏みリードオルガンをひいてみよう！」  
日 時：平成30年6月10日(日)  
10:00～11:45、13:30～15:15  
会 場：研修交流センター 音楽セミナー室  
講 師：日本リードオルガン協会会員  
受講者：19人

## ミュージアムサロン「リードオルガン」

足元にある2枚の板を交互に踏みながら音を出す足踏みリードオルガンを、日本リードオルガン協会会員の多田なおみさんに演奏していただきました。

最初に、聞きなじみのある日本の曲を4曲ご披露くださり、その懐かしい響きに思わず歌詞を口ずさむ方も見られました。次に演奏された、ヨハン・クリストフ・フリードリヒ・バッハの「きらきら星変奏曲」では、旋律のモチーフが変化していくとともに、鍵盤のすぐ上に取り付けられている白くて丸い「ストップ(=音栓)」を出し入れすることで音色もさまざまに変わっていき、表情豊かな演奏を楽しみました。最後に「慈しみ深き」など3曲の讃美歌を演奏していただき、その美しい響きに魅了されました。

リードオルガンは、幕末から明治時代にかけて、キリスト教の宣教師によって日本に持ち込まれ、教会で讃美歌の伴奏に用いられていました。パイプオルガンや電子オルガンを使用する教会もある一方で、今もリードオルガンを使う教会が多くあるそうです。

午後のひととき、リードオルガンの温かい音色に癒されるコンサートとなりました。

ミュージアムサロン「リードオルガン」  
日 時：平成30年6月10日(日)  
11:00、14:00、15:30(各30分)  
会 場：楽器博物館 天空ホール  
出 演：多田なおみ  
入場者：168人



## レクチャーコンサート「バウルの響き」



今年度最初のレクチャーコンサートは、パルパティ・バウルさんをお招きしました。バウルとは、「ベンガルの放浪の吟遊詩人」と呼ばれる行者で、楽器を使って拍子を取りながら独特の哲学を反映した詩を歌い上げ、舞い踊ります。この日パルパティさんが使用した楽器は、一絃琴のエクタラと小太鼓のドゥギ、そして足首につけた鈴飾りのヌプルです。右手に持つエクタラで、歌い手の声の高さに合わせた基音を奏で、腰元のドゥギを左手で叩いて拍子を取ります。鈴の入った足元の飾りヌプルは、あるレベルに達したバウルしか使わないものだそうです。

バウルは仏教やイスラム神秘主義、ヒンドゥーなど様々な伝統の影響を受けていますが、どの宗教にも属さず、師弟相伝で受け継がれてきたものです。滋味深い音楽で、自然と心が晴れていくようでした。

また、今回のレクチャーコンサートに関連して、井生明さんの写真展「バウルを育む黄金なる大地」も開催しました。ベンガルに広がる田園は、収穫時期になると稲穂が黄金色に輝くことから、「黄金のベンガル」と呼ばれます。人々の暮らしやバウルの歌声、ベンガルの気温や匂いまで感じられそうな写真展でした。

レクチャーコンサート  
「バウルの響き～インド西ベンガル州の吟遊詩人～」  
日 時：平成30年6月6日(水) 19:00  
会 場：楽器博物館 天空ホール  
出 演：パルパティ・バウル、佐藤友美パロミタ  
入場者：144人  
井生明写真展「バウルを育む黄金なる大地」  
会 期：5月3日(木)～6月10日(日)

## ミニ展示「沖縄の心の音～三線～」

夏と言えば沖縄！夏休み期間にあたる7月22日(日)から9月24日(月)まで、ミニ展示「沖縄の心の音～三線～」を開催中です。初日に行ったミュージアムサロンには、琉球古典音楽野村流・湛水流師範の山内昌也さん(歌三線)、沖縄県立芸術大学からは佐久本純さん(歌三線)、林杏佳さん(箏)をお招きし、琉球王国で伝承されてきた宮廷音楽の演奏で幕開けをしました。演奏に続いての講座では、沖縄県三線製作事業協同組合事務局長の仲嶺幹さんから、三線の製作工程や材料について、また三線の置かれている現状や組合の取り組みなどをお話いただきました。

展示は、職人が作り上げた名器とともに、6弦三線やダブルネック三線などの珍しい楽器が並んでいますが、中でも一番注目を集めているものは、全長4m40cmのビルマニシキヘビの皮ではないのでしょうか。動物の「いのち」をいただいて作られていることを再確認し、三線で奏でられる一音一音の響きが心に深く沁みる展示となっています。

ミニ展示「沖縄の心の音～三線～」  
会 期：平成30年7月22日(日)～9月24日(月)  
※好評につき、会期を延長します。  
会 場：楽器博物館展示室  
ミュージアムサロン「琉球古典音楽の響き」  
日 時：平成30年7月22日(日) 13:30(演奏)、14:30(講座)  
会 場：楽器博物館 天空ホール  
出 演：山内昌也、佐久本純、林杏佳  
講 師：仲嶺幹  
入場者：95人

